

第4回日本食文化ナビ活用推進検討会議事概要

1. 日 時：平成 26 年 1 月 30 日（木） 10:00～11:00
2. 場 所：農林水産省 第2特別会議室
3. 出席者：竹村座長、藤井委員、細川委員、藻谷委員
農林水産省：天羽政策課長、武元政策課課長補佐

4. 概要

（天羽課長）

これまで委員の先生方には精力的に議論いただき、日本食文化ナビが徐々にバージョンアップしてきた。まだ詰まっていないところもあるが、本日の最終検討会にて更に議論をいただき、より良いものにしていただきたい。

（竹村座長）

「和食」の無形文化遺産登録に伴い、国内のみならず世界からも日本食が注目を集め、日本を再生していくチャンスを迎えている。そういった意味でも、この日本食文化ナビが果たす役割は非常に大きい。NOTE も BOOK も改良を重ね、随分良くなったと思うが、本日最後の検討会で心置きなく話し合っていただきたい。NOTE についてだが、イラストはどのようなイメージか。

（事務局）

最初の見開きのページは町を俯瞰するイメージである。6，7 ページ目は座っている登場人物のイラストを立っている人に変更するかもしれない。現在仕上がりの作業中なので、更に変更点が出てくる可能性はある。人物像については、このタッチでさまざまな関係者を追加していく。

（藻谷委員）

人物像は男 3 人に女 1 人ではなく、男 1 人に女 2 人ぐらいで、おばあちゃんを登場させてほしい。現状のイラストでは、農村の人が NOTE を手に取った時「これは自分に関係ない本だ」と感じてしまう可能性がある。本の印象はイラストで決まるので留意が必要。

（竹村座長）

16、17 ページはヒントの表現が硬い。吹き出しを使って人が話しているようにしているが、口調が丁寧である。もっと直感的に心に届くような「つぶやき調」にしてはどうか。

（藻谷委員）

気になった点はイラストとコラム。特に、23 ページ、コラム 6 の「6 次産業化」は整理せずに書いているので何を言っているのか分からない。外部委託と $3 \times 2 \times 1$ は全く関係

がないので、外部委託は書く必要はない。1×2×3と3×2×1の違いは何かというと、前者は地元でとれたものを、どのようにしたら地元のバリューチェーンがのびるのかという点で加工することを言い、後者は流通業者が主導になって、売れるからこういうものを作っていこうとするが、実際には売れてしまうと地元産でないものを外から調達することをいう。最大の違いは、1×2×3は「売り切れ御免」になるという事である。3×2×1はそうではない。つまり、「讃岐うどん」と一切関係なくとも「讃岐うどん」と謳うようなものである。3×2×1は大企業的には当たり前で、3×2×1でないこと自体が大企業のマインドでは信じられないこと。「売れるのだからどこから調達してきてもいいではないか」と考えるのである。

コラム5「2030年問題」の少子高齢化についても何を言っているのか分からない。

コラム4「マーケットを見つめ直す」の冒頭に「東京でウケるのはなにか」とあるように、地域振興をしようとする、つい都会向きの発想をしてしまう。しかし「3年前にウケていたものが、今でもウケ続けているのでしょうか。農業、食文化というものは1年や2年で潰れていいものではありません」という書き出しにすると分かりやすい。

(竹村座長)

効率的なアドバイスである。そうすると2、3ページ冒頭のところも変わってくるので、是非検討してほしい。1番目の「外部への素材提供のみ・食材ファクトリー」型、これは2番目の「素材は地元産・加工や販売は外部におまかせ」型と重複する部分があるので、今いただいたアドバイスの6次産業化を1枚目の前面に出して、例えば、転倒した6次産業化になっていないか。転倒という言葉は適当ではないかもしれないが、ここでキュー出ししておいて、コラムで読んでもらう。

2ページ2番目「素材は地元産・加工は外部におまかせ」型だが、「・」を「なのに」にする。3ページ目「地域住民は蚊帳の外・地域に根づかない」型は「なのに」ではなく「その結果」。「・」がいろいろな意味に使われているのではっきりした方がいい。

NGポイントに「地域住民が触れる機会がない」とあるが、「地域の人と食文化が育たない。それでいいのですか？」とストレートに入れた方がよいと思う。

(藤井委員)

3×2×1の話について、私が関わっている地域でも地元の産品を加工する2次の加工流通業者の方が強くなり、今では海外からの輸入品を利用しているというデータがある。

NOTEについてだが、15ページの視点1、「食材の来歴・由来」の部分だが、歴史だけではなくデータを示すことも重要である。例えば大田原の話でいうと、「大田原は専業農家が多く農業が盛んだ」といってもピンとこないが、「10年前の合併前までは本土の農家耕作面積がNo.1だった」と言われると少し違う。最近では、生産量だけではなく、糖度やビタミンなどの性質も調べ数字で出している。データで違いを示すことで、差別化になるという視点も大切である。デザインについては、各CHECK欄のフォントが一部小さいと思う。

(竹村座長)

読みやすさという点でいうと、10、11 ページは情報量が多いが各視点の説明ページなので仕方がない。左のコメントは吹き出しになるのだと思うが、例えば一番目の「文化の衰退と地場産業の…」という内容は抽象度が高いので、「ここで参照して欲しい事例の具体的なプロフィール、こんなケースがあった」というような具体性のある吹き出しにした方がブックにはなるのではないか。二番目のように「産地と飲食店の距離を一気に縮めた…」と書いてもイメージできないので、なにかビジュアル的にイメージできる方がいい。

(細川委員)

「和食」ガイドブックがホームページから **PDF** でダウンロードができることを告知したところ、4桁を超える方から反応があった。その中にちょうど子育ての最中のお母さんがたくさんいて、「国のものとは思えないほどすてきなデザイン」という声が多く聞かれた。また、「デザインは良かったが、文章が教科書っぽい」という意見も多く、そうなるとうワクワクして続きを読めなくなってしまう恐れがある。素敵なデザインだからこそ、もう少し雑誌風にカジュアルに書かれていると、現場で子育てをしているお母さんやお父さんが「これを使って子どもに食育をしよう」という動機づけに繋がるのではないかと思う。学校の先生からも「是非授業で使いたい」というコメントがあった。スタイルとしては好評だったが、読み手に添った作り方をしたらもっといいのではないかと思う。

NOTEについては、「書き込まなければならない」という段階で1つハードルが高くなる。これだけの質問数に回答を求めるならば、回答したくなるような読み物的な要素がもう少しあったほうが、書こうかというモチベーションに繋がるのではないか。回答することのメリットが読み手にはっきり伝わらないと、時間を割いてまで書いてはくれない。

(竹村座長)

BOOK のヒント集について、全体に写真がかなり少ない印象だが、手配が間に合っていないのか。

(事務局)

今回は間に合っていないが、見開きに写真が一枚もないページについては極力入れていきたい。

(竹村座長)

細川委員の読み手目線の指摘は重要である。作る側の目線で徐々にバージョンアップしてきたので、その点については盲点だった。最初のページにイラストが入っているものの、第三者から見ると、写真と具体性でナビゲートしていくという点で力強さが足りない。「問題提起からの書き出し」というのは昨年からのナビの構成だったので気にしていなかった

が、逆に最初のページに「こんな成功例があります」と写真5枚ぐらいで紹介し、読み手に「こんな風に取り組んでいけたらいいな」と思わせておいて、次の見開きで「しかし、こんな落とし穴に陥っていませんか」という流れにすると、この本を読んでもみようか思わせることができるのではないかと思う。

せっかく **BOOK** にリソースがたくさんあるのだから、説明的なことは「**BOOK** のここを見て」というキャプションでいいと思う。「こうなりたい」「こうあるための **BOOK** なのだ」ということがビジュアル的に伝わらないと、しっかり読んでもらえないという危惧がある。表紙にそういう写真を曼荼羅的に並べて見せるのもいいと思う。

(細川委員)

写真でなくても、「和食」が無形文化遺産に登録されたことを機に、私たちが現代の問題点を見直して正しい和食を考えるといったコラムを掲載するのもいいと思う。

何だか分からずこの本を手にとって見開きを見た時に、面白いと思わせることができれば、その先を読んでもくれる確率も上がる。どのような立場の人が手に取っても、自分事だと受け止めてくれる導入が大事だと思う。

2、3 ページの見開きは、産業の印象が強いので、食育に携わっている人はあまり興味を示さないと思う。今、日本人が食のことを考えなければいけないという共通認識を持っているので、どこに問題があるか、どうしたらいいのか、という点にフォーカスを当てればよいのかと思う。

(竹村座長)

NOTE を開いた時、まず読むメリットが目に入ってきて、その次に問題意識が提起されるという流れのほうがいい。作業終盤に差し掛かったこの時期に申し訳ないが、今から変更が可能であれば、対応できないか。

6、7 ページのイラストはいいと思う。誰かが既に座っているのではなく、「ここに座るのはあなたですよ、あなたが参加しないとこの取組は動き始めませんよ」というメッセージが空席として表現されていると素晴らしい。

この段階で修正に関する要望がたくさん出たが、委員のみなさんはこの日本食文化ナビを良くしたいという気持ちがあるからこそそのことなので、対応いただければと思う。

また、23 ページのコラムにまで辿り着く読者がどれだけいるのだろうかと考えたら、大事なことを早めに伝えてから、チェック項目に入るという流れの方がいいのかもしれない。

(細川委員)

ミラノ万博で初の「食の万博」が開かれる。万博が開催されることや、そこで農水省が何をやるか、日本がどういうプレゼンをするのかなど、食の関係者でも知らない人がいる。

(藻谷委員)

4, 5 ページを先に持ってきて、4 ページにミラノ万博について言及する。「はじめに」はまじめな内容になっているが、これの代わりに「今世界的に日本食がとても盛り上がっている」、という内容を載せてはどうか。

(細川委員)

著しい人口の減少に伴い、国内の食品メーカーは事業の 50%位を海外に持って行かないと存続が出来ないという声も聞かれる。国産のブランド食品をどう海外にブランディングしていくのか、否が応でも世界に向き合った対応が求められ、観光はもちろんのこと、生き残るために戦略を仕掛けなくてはならない。しかし、地域の方々はグローバルといっても今一つピンとこない。世界の中で動いている視点を導入部分に持ってくれば、「だから今やらなくてはならない、だからこの波に乗ろう」とポジティブな喚起になるので、そのあとのネガティブな問題喚起「だからここを見直さなくては」ということにも耳を貸しやすくなると思う。

(竹村座長)

整理すると、1 つ目に、「和食」が無形文化遺産に登録され世界から注目される中、我々があまり意識していない価値も見直されている、ということ。2 つ目に、それが観光や地域おこしの大きなリソースとなっている、ということ。3 つ目に、具体的に日本人の食生活はどうか、あるいは地域の食と農の内実、危うくなっているところもあるのではないか、ということ。

地域の担い手や食文化がしっかり再生されない限り、「和食」が無形文化遺産に登録されても意味がない。無形文化遺産というのはきちんと生きながらえた文化という事。生きながらえた文化としての日本食文化、或いは地域の食文化というものをもう一度ここで再構築しなくてはならないし、それが同時に地域おこしのチャンスでもある。成功例を提示し、また逆に反面教師として自分に照らし合わせることができるようナビゲートできれば、これを読んでみようという動機付けは伝えられると思う。

(藻谷委員)

4, 5 ページを前にもってくるという案はいいが内容が硬いので、「和食」がユネスコ無形文化遺産に！食文化で地域を元気にするチャンス到来！でも・・・という冒頭はどうか。役所っぽく見せないためには、「～である」や「～的」という表現を使わない方がいい。例えば、「日本の伝統的な食文化」ではなく、「日本伝統の食文化」のように少し表現を変えることで雰囲気が変わる。「無形文化遺産登録を機にその動きがさらに加速化」という表現は具体的でないので、「ますます世界中の人が和食を取り入れて楽しみになる時代が来るでしょう。」と変えるといい。

また「和食」が認定されたということは単においしいからではありません。」と続け、「自然を壊さず、素材重視で素朴だけど味わい深い、質素だけど奥深い、日本文化そのものが

見直されている、だから売れています。ところが、我々の生活を見てみると、和食は忘れられようとしています、皆さんは今週何回和食を食べましたか。和食が世界に評価される21世紀に急速に日本の和食文化は損なわれつつある。心配する人も増えています。」としてはどうか。

(細川委員)

無形文化遺産に登録されたことで大きな波が起こると思う。国内では和食の職人はあまり評価されていないが、これから世界中で引っ張りだこになると思う。外国のレストランで日本の職人がいることは付加価値となる。人材レースが起き、国内の価値では予測できない新しい価値が生み出される。

(藻谷委員)

4ページの続きをどうするか。三段落目「食文化は地域活性と伝統文化継承を両立する可能性を秘めています」と難しく書いている所をもっと分かりやすく書いた方がいい。例えば、「日本食は単に文化ではありません。農業、漁業、色々な人の営みが関わっています。いろいろな地域の産業が日本食文化に支えられているのです。食文化を使うことは、地域活性化の最大武器です。世界的に食文化が見直されているのを活かして日本人が逆に失いつつある食文化をしっかり守って、それを使って、地域の色々な産業、営みをもっともっと元気にしよう。そのためにはどうしたらいいのか。その道筋を示すのがこの食文化ナビです」としてはどうか。

(竹村座長)

表紙の「日本食文化ナビ」というのは農水省としては残した方がいいか。

(武元補佐)

名前自体を残さなければならないということではない。

(竹村座長)

これはダブルミーニングになる。「日本食」「文化ナビ」という意味と「日本の食文化ナビ」という意味がある。どちらにも解釈できるが、その下の「一食で地域を元気にする本一」で明確に定義することとする。「農」という言葉を入れると自分には関係ないと思う人もいるかもしれないので「食」だけにした方がいい。

本日の議論を踏まえ、完成に向けたとりまとめをお願いしたい。

(以 上)